

マコガレイの年齢別漁獲尾数

福島県水産資源研究所 資源増殖部

1 部門名

水産業—資源管理—底びき網

2 担当者名

白土遼輝・岩崎高資・守岡良晃・瓜生純也

3 要旨

原発事故による沿岸漁業の操業自粛により沿岸底魚類の重量密度は多くの魚種で大幅に増加したが、震災後は 2015 年頃をピークに減少傾向にある。マコガレイの漁獲量は 2019 年、底びき網漁業の CPUE（曳網 1 時間あたり漁獲量）は 2017 年漁期をピークに減少傾向にあり、個体数密度調査では、2019 年以降、当歳魚が採捕されなかった。また、2019～2021 年の年齢別漁獲尾数は 2～3 歳が中心であり、1 歳魚の割合が低下していた。今後、高水準の新規加入がなければ資源減少が続くことが懸念され、資源の持続的利用の方策の検討が必要である。

- (1) 震災後のマコガレイ漁獲量は 2019 年の 85 トン、底びき網漁業の CPUE は 2017 年漁期の 13.4kg/h 以降減少し、2021 年と 2021 年漁期はそれぞれ 61 トン、3.1kg/h であった (図 1)。
- (2) 調査船による当歳魚個体数密度調査の結果、2003 年以降、継続的に当歳魚の新規加入が見られていたが、2019 年以降、当歳魚は採捕されなかった (図 1)。
- (3) 市場調査で得た全長組成を Age-length-key により年級分離し、年齢別漁獲尾数を算出した。漁獲年齢は 2～3 歳が中心であり、1 歳魚の割合が低下した (図 2)。

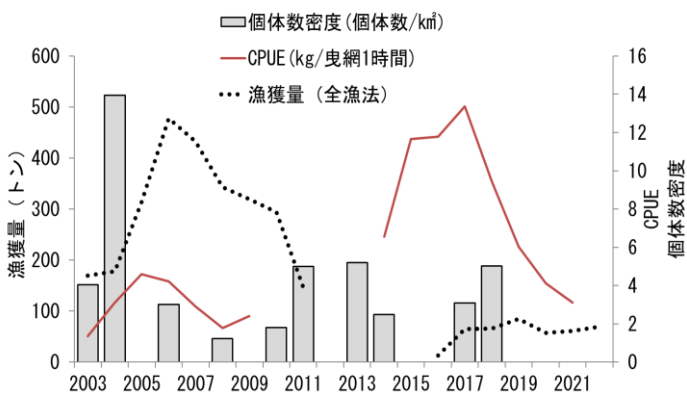


図 1 漁獲量、底びき網漁業の CPUE*及び当歳魚個体数密度
※漁期 (9 月から翌年 6 月)

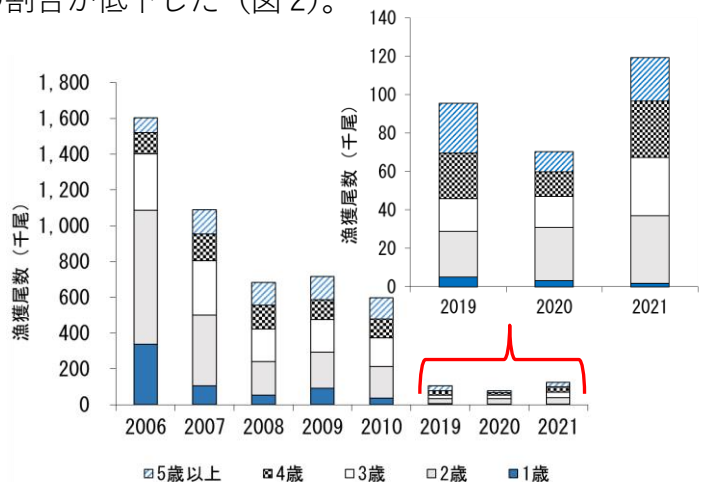


図 2 年齢別漁獲尾数

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明

5 主な参考文献・資料

- (1) 沿岸漁業の操業自粛によるマコガレイ資源への影響、平成 23 年度参考成果